

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

令和 5 年 5 月 1 日現在

機関番号：32670

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2018～2022

課題番号：18K02121

研究課題名(和文)日本の精神医療地域移行の促進に寄与する英連邦圏の脱施設化政策促進要因の研究

研究課題名(英文)A study on factors that enhance the community-focused mental health services in US and common wealth countries

研究代表者

木村 真理子(KIMURA, Mariko)

日本女子大学・人間社会学部・研究員

研究者番号：00266462

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,400,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、英連邦圏の脱施設化政策・地域移行の過程と日本の進展疎外要因を政策展開事例に比して解明した。研究の目的は、精神保健変革プロセスを精査し実施戦略を推進する政策的意図を知ることにある。方法は、1)脱施設化政策の実施過程、権限の移管、施設整備、人材の確保およびサービス提供システムの構築を含めた精神保健政策の進展過程と現在までの帰結の把握、2)脱施設化政策を推進するうえでの政策理念および重視したモデル、3)脱施設化・地域移行政策立案および実施過程でサービスユーザーの声が専門職や医療機関、政策的意図を政策過程に反映させる仕組み、4)日本の脱施設化・地域移行の近未来予測と課題を探った。

研究成果の学術的意義や社会的意義

脱施設化政策は施設ケアの弊害の高まりと共に欧米先進諸国で進展し精神病院はその機能をほぼ転換させた。これらの国々や諸州は、予算措置の困難、人件費や施設費の確保の困難、州立精神病院から総合病院への病床移行や削減の困難はあったが、脱施設化政策推進の計画を定め政策の完了に至った。当該分野研究事例から、政策の実施計画立案や実施戦略には、実現可能で具体性のある方策やシステムの構築、政治的な意志をもとに地域移行の実施戦略を進めることが必須の要件であるとの結論に至っている。先進諸国の脱施設化政策の実施過程の研究は、日本が今後より具体的な政策的意志や実施戦略をもって地域移行の政策推進の方向を示してくれる。

研究成果の概要(英文)：De-institutionalization policies have progressed in Western developed countries along with growing voices to overcome the evils of institutional care, and in these countries, mental hospitals have almost transformed their functions today. In the 1970s, developed countries in Europe and the United States chose to take measures to care for people with severe mental disorders in the community, closing state mental hospitals, moving beds and medical functions to the community, and completing deinstitutionalization. Based on concrete implementation cases and research on deinstitutionalization policies and regional transitions in developed countries in Europe and the United States, presenting and implementing concrete methods of policy implementation, such as presentation and implementation of policy plans, evaluation and publication of progress, budgets, and a clear demonstration of political will.

研究分野：精神保健福祉政策の国際比較研究

キーワード：精神保健福祉政策 心理社会リハビリテーション 重度の精神障害 精神保健サービスの消費者 メンタルヘルスコンシューマー 脱施設化政策 地域精神保健福祉 コミュニティベースプログラム

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## 1. 研究開始当初の背景

脱施設化政策は施設ケアの弊害の高まりと共に欧米先進諸国で進展し精神病院はその機能をほぼ転換させた。これらの国々や諸州は、予算措置の困難、人件費や施設費の確保の困難、州立精神病院から総合病院への病床移行や削減の困難はあったが、脱施設化政策推進の計画を定め政策の完了に至った。当該分野研究事例から、政策の実実施計画立案や実施戦略には、実現可能で具体性のある方策やシステムの構築、政治的な意志をもとに地域移行の実施戦略を進めることが必須の要件であるとの結論に至っている。先進諸国の脱施設化政策の実施過程の研究は、日本が今後より具体的な政策的意志や実施戦略をもって地域移行の政策推進の方向を示してくれる。

## 2. 研究の目的

本研究では、英連邦圏の脱施設化政策・地域移行の過程と日本の進展疎外要因を政策展開事例に比して解明した。研究の目的は、精神保健変革プロセスを精査し実施戦略を推進する政策的意図を知ることにある。方法は、1) 脱施設化政策の実施過程、権限の移管、施設整備、人材の確保およびサービス提供システムの構築を含めた精神保健政策の進展過程と現在までの帰結の把握、2) 脱施設化政策を推進するうえでの政策理念および重視したモデル、3) 脱施設化・地域移行政策立案および実施過程でサービスユーザーの声が専門職や医療機関、政策的意図を政策過程に反映させる仕組み、4) 日本の脱施設化・地域移行の近未来予測と課題を探った。

## 3. 研究の方法

1) 2000年初頭に州立精神病院の閉鎖を完了したカナダ BC 州の精神保健政策と精神保健の変革の過程について、実施計画と戦略をケーススタディにより明らかにした。ケーススタディは、政策文書および学術文献による資料研究を第1段階とする。次に、2) キーインフォーマントインタビューを行い、政策推進にあたった関係者、専門職者らからデータを収集した。3) 精神病院閉鎖の過程と同州の精神保健政策およびその精神保健変革過程の研究成果をもとに先進諸国(主として英連邦圏)の精神保健変革の動向を把握し未来予測を立てる。これらの研究成果をもとに、4) 日本の精神保健医療福祉分野の地域移行の状況と比較し日本の課題を明らかにした。

## 4. 研究成果

脱施設化の過程を達成した英連邦圏(カナダの例をもとに)の現在と今後

### (1) 脱施設化政策の進展と完了

脱施設化政策は施設ケアにおける弊害からの脱却の声の高まりと共に欧米先進諸国で進展し、これらの国々では、今日精神病院はその機能をほぼ転換させた。欧米先進諸国は重度精神障害をもつ人々を地域でケアする方策を1970年代に選択し、州立精神病院の閉鎖、それに伴うベッドと医療機能を地域へ移行させ脱施設化を完了させた。欧米先進諸国の脱施設化政策・地域移行の具体的実施事例および研究から、政策による計画の提示、実施、進捗の評価と公表、予算等、政策実施の具体的方法の提示と実現に至らせる政治的意志が明確に示されている(Sealey, 2012; 木村, 2012a,b; 木村, 2014)。

欧米先進諸国が脱施設化政策を打ち出して半世紀が経過し、精神医療保健福祉政策の重点は重度の精神障害のケアから市民のウェルビーイング、社会の人口動態に即した精神保健福祉の向上へとシフトしている(木村 2014; 木村 2012a; 木村 2012b)。また、欧米先進諸国の精神医療保健福祉の政策は、リカバリー概念の普及、病気への構えの変化、精神保健サービスユーザーの経験の蓄積や市民のウェルネス志向とともに、これらの要素が精神保健サービスや政策に反映されるに至っている。こうした政策

動向はサービスユーザーの精神医療保健福祉システムにおける経験が、政策立案にとって、地域で生活を維持することや入院率の低下や再発防止だけでなく、地域生活の維持以上の意味を持ち地域移行の政策を策定してゆくうえで不可欠の要素であると認識しているからである。

### (2) 脱施設化計画の進展過程の帰結

脱施設化を1970年代から計画し、およそ四半世紀をかけて脱施設化計画を実施に移したカナダの諸州では、州立精神病院の規模縮小や州立精神病院の機能の意向、総合病院への病床移行等へと、機能を地域への移行を実現させた。一方、州立精神病院は、より特化させた機能で精神保健サービスを提供する方式に変化した。例えば、オンタリオ州のAddiction and Mental Healthは、かつての州立精神病院が脱施設化と専門的機能に特化した州立病院の変化の一例である。アディクションに対するサービスや機能をより専門化させた。

また一方で、精神病の普及啓発にも力を入れ、専門的な研究の推進拠点としても機能している。

BC州でも、2000年頃を契機として、州の精神医療の焦点を、かつての重度の精神障害から、市民の精神的健康、若年者の精神保健の普及啓発、および精神保健の促進への焦点を移した。1970年代から四半世紀をかけて地域を拠点する重度の精神障害のある人々の地域ケアシステムを構築したことにより、州立精神病院の規模縮小、機能の特化に移行させた結果である。また、総合病院とともに、地域の病床を設けて必要に応じて対応する機能も備えている。

### (3) 英連邦圏の脱施設化と日本の地域移行との相違点

日本の精神病院は多くを民間の医療機関に依存し、公立の精神医療機関の機能が英連邦圏(例えばカナダ)とは異なることもあり、同じ指標で比較することはほぼ不可能に近い。また、病床数の削減についても、カナダの諸州が実施してきた脱施設化計画と類似の計画で入院率や在院機関を減少させる計画を比較することは容易にはできかねた。したがって、今回の研究では、英連邦圏の脱施設化計画(州立精神病院)の変遷と現在の状況の把握にとどまったことを報告しておく。

### 引用文献

木村真理子(2014)諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷の形成と発展:カナダ脱施設化政策の完了とその後 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第1章第2節2,30-34.本精神保健福祉士養成校協会編第2版、中央法規(この部分単独執筆)

木村真理子(2012a)アメリカにおける精神保健福祉分野のソーシャルワーク発展の歴史、精神保健福祉相談援助の基盤、第3章Ⅱ、pp62-69.精神保健福祉士養成セミナー編集委員会編、へるす出版(この部分単独執筆)

木村真理子(2012b)海外の精神保健福祉援助活動の形成と発展:カナダ 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第1章第2節2 日本精神保健福祉士養成校協会編、中央法規(この部分単独執筆)(pp29-31)

Sealy, P. (2012) The Impact of the Process of Deinstitutionalization of Mental Health Services in Canada: An Increase in Accessing of Health Professionals for Mental Health Concerns, Social Work in Public Health,229-237, Published online: 09 Apr 2012

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計2件

1. 著者名 木村真理子「社会福祉学双書」編集委員会編	4. 発行年 2023年
2. 出版社 全国社会福祉協議会	5. 総ページ数 10
3. 書名 ソーシャルワークの基盤と専門職：諸外国の動向	

1. 著者名 木村真理子、小原真知子、武田丈	4. 発行年 2022年
2. 出版社 中央法規	5. 総ページ数 304
3. 書名 国際ソーシャルワークを知る	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------